

自由討論

平岡 民主党政権がふがいない状態になっているので、厳しく記述していただいたが、ちょっと御理解いただきたいということで発言したい。

「実行されないで終わった民主党のマニフェスト」では「日本を変えていくための手段にはなりえない」とあるが、マニフェストは「任期の期間中に実現すべきもので、財源を示して実行していく」というのが主要目標である。「具体的な手順が明記していなかった」ことが実行できないで終わった理由とされているが、実際には、政権をとってから起こった政治状況のなかで、実現するうえでの種々の支障が生じた。選挙でまけて参議院で多数がとれなかったため、子ども手当の法律改正もやれなくなった。消費税率引き上げについても、ギリシャ危機があり、財政危機問題に強い関心を持つリーダーが民主党のなかで登場した。マニフェストに手順を具体的に明記しなかったのが実現できなかった理由ではない。

民主党は「憲法を守りきれなかった」というが、我々は憲法を変えたわけではない。総選挙のときには、安倍首相の自民党憲法改正草案を批判したが選挙でまけた。「憲法を守りきれなかった」ということの意味が分かりにくい（演説原稿を一部修正）。

岩国市役所の補助金について「政府の契約違反が問われることはついになかった」とあるが、民主党が政権をとってから「補助金をカットしたことは遺憾であった」という意志表示を政府にさせた。それで十分であったとはいえないが。

『世界』に掲載した私の論文（参考文献）

のなかで、アジアの緊張を緩和させることによって米軍基地を縮小し、無くしていく、という道があると書いた。今日本がおかれている状況で安保廃棄といっても納得してもらえないのではないかと、いったのであって、未来永劫納得してもらえないというのではない。民主党政府とアジア諸国との協議は、実績が上がっていなかったという批判はあるが、協議は色々な場面で行っていた。尖閣諸島問題は、むしろ結果的にむずかしくしてしまっただけということはあるが、石原知事が都有化しようとして混乱をおこしたので、それを防ぐために国有化した。協議はしたけれど結果が出なかったということは理解してほしい。

「厚木の600万人の被害より、岩国の60万人の被害のほうが問題が少ない」という個所は、私が防衛省と交渉したとき、彼らがそう言ったということを紹介しただけで、私が彼らの発言を妥当と考えているわけではないということをご理解いただきたい。

稲生 平岡さんの説明に、みなさんは納得されたか。もし平岡さんがそういう考えをもっているのなら、その都度説明すべきだったが、それはなかった。

河井 録音を聞いたところ、600万人のところで平岡さんの意見が出ていない。私はそれに賛成しているわけではない、ということを一言付け加えると、誤解を招かないですむ。

平岡 自分の意見を何も言っていないのであれば、変な推測をした文章は書かないでほしい。

稲生 マニフェストは財源を示すので必要だとあったが、そこまでやっていないし、できなかった。

平岡 結果としてできなかったことがあることは認める。「具体的な手順が明記されない」ということを理由としてあげるのは妥当でないと言っている。

稲生 マニフェストは多くの人にいままでなかった目標を示した。しかし雲散霧消した。

河井 沖縄の問題でとくにマニフェストが実現されなかった。

平岡 マニフェストにどう書いてあったかご存知か。「米軍再編計画については見直しの方向で臨む」と書いてある。ただ、鳩山首相が沖縄で、「普天間基地については、国外、すくなくとも県外に移設」と話した。それはマニフェストではないが、時のリーダーが言ったことには責任を問われなければいけないことだ。

津川 ヨーロッパは基地問題でちょっと違う。NATO軍があり、1989年にベルリンの壁が崩壊して冷戦がおわった。ワルシャワ条約機構がなくなった。基地はあまり必要でなくなった。それで減らしている。NATOはアメリカの指揮権でなく、ヨーロッパの指揮権にはいつている。日本は日米安保条約だ。東アジア諸国に反日感情があるので、基地を縮小するわけにはいかない。そういうことを理解しないと基地問題は雑把にはすすめられない。

南部 基地問題について鳩山さんが突拍子もないことを言い出した。官僚が足をひっぱって、どうしようもない状況になってつぶれた。鳩山発言には、ある意味で真実があった。それまでの自民党政権は、日米安保を軸に米軍とつきあってきており、いまは全く前にもどって米軍追随、いいなりになっている。反対勢力は民主党であって、鳩山さんはそれに楔を打ち込もうとした。今は前にもどって米軍追随、いいなりになっている。

鳩山さんは最初の首相としてああいう発言をした、立派だと思う。それが実現できなかったところに民主党の弱さがあったと思う。

平岡 鳩山さんが普天間基地を国外へといっていることについて、外務省、防衛省の官僚が、アメリカに向けて、アメリカも真剣にかんがえるな、と言ったということが、ウィキリークスでリークされた。鳩山さんがやりたいといっていることに官僚が協力しなかった。平野官房長官が普天間について与党の協議会（国民新党、社民党、民主党）をつくった。私は当時の協議会の与党関係者に「本当に変えようとするのなら、普天間の辺野古移設に関わった官僚ははずして、かかわっていなかった官僚をもってきて検討させなければ、変えられない」と言ったが、官僚の入れ替えは実行できなかった。民主党内には、日米関係を大事にしたいという人も多い。前原、長島、最後は菅さんも、鳩山さんがやめるときはこう約束したからこう以上かえられないということになってしまった。日米関係を重視する政治家がそういう担当部署についていたので、日米関係は変えられない状況になった。

南部 今の自民党政権なら今のままでいく。それにたいする反対勢力は民主党だけだ。がんばってもらいたい。しかし政策内容をもうちょっと国民にわかりやすいように説明し、正々堂々とやってほしい。民主党は何やってるのだという声が出ている。

平岡 民主党がばらばらになった、といわれる。どちらかというと、親米派でない方の政治家には「おれがおれが」というタイプがいない。常識的に活動する。意見はいうが、最終的には党の方針は尊重せざるをえないと考える。対外政策の決

定までに色々な経緯があることがあまり知られていない。

稲生 政党は政策を訂正する過程で、民意をどれだけくみいれているか。政党間では論争があるが、それは民意と隔絶している論争だ。

平岡 我に「民意」ありと考えて行動する政治家が多い。自分は民意を無視しているという政治家はいない。民意を誤解している、あるいは自分の都合のいいように理解している。安倍さんだって民意を得ていると思っているようだ。

稲生 国民が民意を政治家にぶつけているともいえない。ぶついたら政治家がそれをくみ上げる作業をしているか。

平岡 それはしてはいる。ただ最後にきめるとき、どの声を重視するかというときは、力関係できまってくる面がある。愛宕山についても、地元関係者が東京に来て、議員のグループ、勉強会に訴えた。それを整理して民主党政権下では議論するよう要請するが、決定は要請とは違うものができるといえることはよくあった。

河井 政策がどういうプロセスできまるのかは難しい。

平岡 それはトップリーダーの問題だと思う。リーダーがどういう人を使うかによって違ってくる。リーダーシップを発揮する場合、官僚も使えるように適正な配置をし、適正な指示をしなければならない。

河井 「政策」というのは、それを実現する方法もはいつていなければいけないのか。目的だけ書けばいいのか。

平岡 前者だ。目的だけではあまり意味がない。その方法もどこまで現実的な方法であるか。演説原稿の○のついている政策試案の部分を見たが、どうやって実現するのだろうか、という疑問もある。そのところも難しい。

河井 基地問題について、「見直す方向で」

といいながら一歩もすすめなかった。結局もとに戻ってしまった。鳩山さんの頭のなかで、具体的な案はできておらず、ぶつけてどうだろう、と考えた程度だったのではないか。反対もかなり大きいただろう、アメリカの反対も大きいただろうと考えただろうが、こうすればなんとかやれるという具体的な構想があったかどうか、わかりにくい。

平岡 そこはむずかしい。普天間の国外・県外移設は、鳩山さんが勝手に言ったわけではない。民主党内に沖縄問題の議員懇談会があった。若手中堅の議員があつまり、そのなかで普天間の問題の構想が書かれていた。それが形式的に民主党全体が審議したという形になった。沖縄問題に関心のある人たちが話し合ったことだ。しかし政権の中心にいた人たちはそのグループに関与していなかった。それを鳩山さんは党の全体の意向であると考えてしまった。政策をどうやって実現するかということは、提案としてはあっても、提案後にもいろんな利害関係者をふくめてもみ合って進めていくこともあると思う。

稲生 これは皆さんの意見をまとめたものですから、是非これから考慮していただきたい。

津田 民主党のマニフェストは、はじめて政党が書いて打ち出したものだ。国民は非常にわかりやすかった。だから何ができなかったかもよくわかった。国民が考えねばいけないのは、その後の選挙で自民党が全く政策を具体化しないで、従来型の選挙に徹して、しっぽをつかませないようにしたのに、自民党を選んだということだ。国民の側の問題も大きい。テレビで外国人の日本人観として「矛盾を受け容れる国民」という意見があった。ドイツで日本にきて原爆問題を研究し

ている人も、気付いてきたことがあったという。日本は被害のことは強調するが、加害のことについては触れないと言っていた。街頭調査などだろう。ドイツは虐殺、ナチス、ナチスにたいして、われわれはちゃんと責任をとってきたという。その人が「日本人は矛盾を受け容れる」という。それが日本の文化だろうと思う。欠けた茶碗でも美しい、風流だという。それがワビサビの世界だが、私は矛盾と思う。「長いものに巻かれろ」とか、「天に向いてつばを吐くな」などいう。あまり逆らわないのが美德ということがある。だから、衆議院選挙で、政策を打ち出さない自民党が、選挙民に受け入れられた、ということがあるのではないか。原発反対という人が自民党に投票するという。議員のもっている政策はあまり問題にせず、投票するという行動もある。政治家の考えが世論ではない。

藤村 この方の発言がわからなかったが、反日感情のなかで、日本側は反日感情をもたせるようにやっている。挑発している。あれだけの加害をしても、従軍慰安婦の少女像ができたとき、すぐ撤去せよと言った。アメリカにもできた。すまなかった、とひとことも言わない。挑発ばかりしているようだ。南京虐殺はなかったとか、教科書から削除するとか。向こうがのぞんでいることは何もしない。ヘイトスピーチがおこなわれている。ドイツだったらおさえるとおもう。ネオナチは政府がおさえた。しかし、日本はヘイトスピーチを規制しない。オリバー・ストーンだったか、日本はいい国だが、政治だけはいただけないといった。安倍政権はお先真っ暗と思う。声をあげなきゃいけないのに、こちらの方もちょっとおかしい。情勢がかわったというが、変えたのは日本だ。憲法の未来永劫に戦争

しないという規定がうれしかった。兵器産業は際限ないない儲けにつながる。私たちはもっと賢い側に立たねばと思う。

南部 私も大企業にいた。税率をかえたり、免除してやったりしている。そうしたらほんとうにお金が　の方に行くのか、　　という、行かないと思う。昔の大企業の創設者なら、全体を配慮するが、今の人は目先だけ。経営者は自分が在籍する間だけ利益をいあげればよいと考える。正社員は減らして、非常勤社員を増やす。これは人件費でなく経費にはいる。企業への金が社員の手にはいるとは思えない。政策について。合議制でもっていこうというのも正しいが、リーダーシップも必要だと思う。ドイツは「原発やめた」と言った。日本では中途半端だ。トップに立つ人が号令かければよい。だから鳩山さんの話をした。トップはそう言うべきだ。それをいかに実現するかという方向へいくべきだ。それができなかった。今の政治は口先だけ。「積極的平和主義」なんて。いったどういう意味かと聞きたい。あれは遊びだ。

藤村 オリンピック誘致のとき完全に放射能はコントロールしているといった。マスコミが「国際公約」だという。コントロールできていないのに。東電自身がコントロールされていないと言った。そのことをマスコミはひとつも言わない。マスコミも悪い。

津田 いま中国がさかんにことを荒立てている。安倍氏はそれを利用して、「集団自衛権」に持っていこうとしている。中国はもっと深い意味があるのかとも思うが、三流国だと思う。「日本がアメリカに守られている」。だから軍事力が少ない、という話はおかしい。助けてくれるのが前提なのか。古代から助けてくれることを前提に自国を守る発想した人はいないの

ではないか。日本をどう守るか。軍備は相手に倍する力がないと戦争できないといわれている。アメリカも中国も核をもっている。それを持たないと日本はまもれないということになる。核をもつことは全世界からおさえられる。軍備にたよったのではだめだ。アメリカの倍の軍備をもたねばならない。

稲生 中国もアメリカも覇権国家はもうけるため、もうけるのは数パーセントの人だ。岩波新書で、「貧困大国アメリカ」というのがある。全体としてアメリカの経済力は高いが、国民の経済力は低い。それは一部の人が金をもっているからだ。中国でも同じことだ。そこには政治政策はなにもない。どうカネをもうけるかだけだ。国民の福祉はあまり考えられていない。政治家とは何か。政治は誰のためにあるのか。政治家をどう作っていくかという議論になる。

津田 政策を実現する方策をもたねばならないという話だった。そこまでできればいいが、机上の空論で、金のことなどはわからない。いい政策を国民が出せば、具体化するのには官僚組織や政治家だ。田中角栄が日中交渉で「僕は学識がない。むずかしいことは君らが考えてやってくれ」と言ったと言う。鳩山さんもそうだ。きめたら遂行する。政治、政権をかえていかねばならない。官僚はなれてないから、いきなりやると抵抗もでる。

稲生 戦争をやめるのに「抑止力」といわれる。今世界で兵器をつかったら、世界がだめになる。テレビで兵器ロボットがあった。無人飛行機で攻撃できる。軍人は傭兵でやる。アメリカが戦争をしかけて、アメリカの国民は無傷で戦争がやれる。絶対戦争をしてはいけないことを政策に出していかなければならない。

津田 日本国憲法にも、安保条約にも、そ

のことは入っている。

稲生 「集団的自衛権」などと言ってるのは低レベルである。

南部 「個別自衛権」はもっているわけだから、「集団的自衛権」にはまったくごまかされている。これを安倍総理が憲法解釈でかえようとしているのは大変なことだ。変えることは絶対許せない。

井原 戦後すぐの時ならともかく、何十年もして、内閣がかわって「法解釈」で変えて行こうというのはいけないことだ。

南部 変えるのなら正々堂々憲法改正でやるべきだ。

アメリカも左前になった。軍事費の削減をやろうとしている。海外派遣費用の負担も大変だ。日本はドンドンいらっしやいという。請求書をアメリカに出すようにすべきだ。ドイツはそれをやっていると思う。日本はやらない。だから米軍がいつまでも沖縄に居ついてしまう。米軍から費用を取るようにすれば、どんどん削減の方向へいくと思う。それが詠めるのに、日本は交渉できない。

橋本 どうしてそれができないのだろうか。こういう難しい話にはわからないことも多い。近所の人にこんな話をしてもわからない人もあると思う。みなさんは奥さんとそういう話をするだろうか。底辺が広がればそれだけ高くなり、立派な人も出てくる。

津田 自民党は自分に反対するのは共産党、左と考える。

橋本 今は女の人が変わらねば絶対変わらないと思う。井原さんのところは奥さんが出ておられる。むずかしい話だけれど、興味をもてばわかってくる。

南部 今国会にかけようとしている秘密保護法案、これが通ると、かなり言論統制がかけられるようになる。時代への逆行だ。

津田 あれだけ明確にかいていても、自衛権という言葉をつけたら集団自衛権までいく。秘密情報か。がんじがらめの言葉でやらないと、すぐ変えられる。

河井 今日、井原さんの発言をたくさん使わせていただいたのだが、総合的に考えを聞かせて頂きたい。

井原 この中で、民意とか、選挙とか、政治家のありかたとか、熟議民主主義とかあげてある。まだ結論がでていないものも多い。是非つめていかねばいけない。具体的な安全保障、憲法、原発とか、さまざまの政策は、大体みなさんに賛成なのだが、一般市民がうけとめて関心もって議論して政治家も尊重して、民意が反映されるようにしなければいけない。この会もそうだ。書かれたことをみると、平岡さんもかちんとくることもあろうが、おおすじではしょうがない。政治家にたよらないで、みずから政策を議論して提言して、少しでも政治を変えて行くというのがこの会の発想だから、具体的な安全保障の話もしなければならぬが、我々の民意を反映する政治をどうつくっていくのか。その第一歩が選挙だ。大島は典型的で、選挙がない。選ぶところがない。徹底的になおしていかねばならない。政策、理念で選択していくことをはっきりしなければいけない。政策は政党がつくるときは、ある程度具体的な方策とか財源をつけてやらねばならぬが、それでもすべてを明らかにできないこともある。すくなくとも方向性をしめす。マニフェストで具体的な財源を示して方策を示さねばといっても、むりがある。まして、われわれの段階ではそんなことはできない。安全保障や社会保障を具体的に方策をつけて提言するというのはできない。市民的な感覚で方向性とか理念を打ち出して行く。具体的に

実現するのは政治のレベルで、あらゆる分野の専門家をまじえて、専門的に研究し、その過程で市民の意見をきいて、民意を反映しながらきめていけばいい。どういふものをつくらねばならないといわなくても、政策的なことをどんどん出していけばいい。

選挙の段階では民意を反映しているといっても、具体的政策について民意を反映させる努力をしなければならぬ。政策を実現し、見直していくという過程において、民主主義が実践されるような政治家、政党を選ばねばならぬ。そういう意志をもった政治家、政党を選ばねばならぬ。

われわれが努力して政治や課題に関心をもち、民意を政治に反映させる政治家を選んで政策を実現していくことが必要。そういう民意を反映する選挙をつくりあげていくことを検討する。

稲生 私は提言もあっていいと思う。こういうことをやってほしいという提言をまとめていくといい。(『終わらないく占領』という本を見せながら) この中にも大分提言がある。市民の立場で提言を作っていく必要がある。

井原 ドイツが原発廃止をきめたとき、専門家をあつめて何カ月もかけて検討した。哲学者まであつめ、専門家の議論をふまえて最終的に決めて行った。そういうことはわれわれには出来ないから、政治の場でやってもらわねばならぬ。

稲生 今日の演説に、意見、「政策の試案」というのがでている。どう考えるか。この試案が正しいかどうかチェックして、演説のテーマにして研究するのはどうか。

井原 演説ではなく、具体的な提言をまとめることになる。

南部 たしかに理念をうたうことも必要だ。しかし何が出来るかも大切だ。東京の友

人は、沖縄の負担の一部を岩国にもってきたらどうか、という意見だった。岩国で住んでいていやだけれど、日米地位協定を改定して、駐留米軍も市民と同様に生活してくれ、というのも、立派な岩国市民の提言になる。日米地位協定の改定、こういうところからはいっていくということも考えられる。具体的なこともある

提言にしてほしい。膨大だから、大変だ。重要なものをピックアップしてやるという。全部はとてできない。

井原 私がやるとすれば、さっきからいったようなことをやる。

稲生 そうやって行くのがこの会として面

参考文献

近藤昭一，平岡秀夫：民主党が目指すべき安全保障：私たちはこう考える。『世界』751，2006. 4. p. 78-91

孫崎享，木村朗編：終わらない＜占領＞：対米自立と日米安保見直しを提言する！. 京都：法律文化社，2013. 6（井原勝介共著）

発言者（50音順）

稲生 慧	岩国市岩国
井原勝介	岩国市今津
河井弘志	周防大島町日前
津田利明	岩国市桂町

津川道男	岩国市昭和町
南部博彦	岩国市平田
橋本道子	周防大島町西方
藤村英子	周防大島町下田

白いのではないか。

井原 あまり実現とか専門的というのでなく、こうしたい、こうすべき、という自分の構想を言うのなら、誰に遠慮することなくやれる。具体的な手順まで書いていくのはなかなかむずかしい。

河井 それは私を総理大臣にしてくれないとやれない。（爆笑）

井原 そりゃ、草の根が政権をとればやりますよ。どういうところを具体的に考えていくべきか、ということならやれる。

河井 それをすこしでもやっていくと、われわれにも智慧がついてくる。